卸売業者の経営状況（概要）

水産物部は減収減益、青果部は増収増益、花き部は減収減益

＜東京都中央卸売市場の卸売業者31社の平成22年度（平成23年3月期）事業報告書を集計＞

【ポイント】

○　水産物部は減収減益

総取扱金額（売上高）は、５，１４３億４，０４４万円となり、前期比１．２％減であった。

経常利益は、１２億９，１９６万円となり、前期から比べ約５億円の減少となった。

総取扱金額の減少は、主に受託物品の取扱数量が１０．３％減、取扱金額で約１４２億円減少したことによる。このため、売上総利益は、受託物品販売手数料が大幅に減少したため、約６億円下回った。

○　青果部は増収増益

総取扱金額（売上高）は、５，３７６億６，７９８万円となり、前期比４．２％増であった。

経常利益は、３６億７，０４１万円となり、前期と比べ約１１億円の増加となった。

総取扱金額の増加は、総取扱数量が減少したものの、受託物品、買付物品ともに単価が上昇したことによる。

営業利益・経常利益は、販売費及び一般管理費が増加したものの、売上総利益がそれ以上の伸びとなったため、増益となった。

○　花き部は減収減益

総取扱金額（売上高）は、８２７億３，５０６万円となり、前期比３．３％減であった。

経常利益は、３億４，５７４万円となり、前期から比べ約１億２千万円の減少となった。

総取扱金額の減少は、総取扱数量が前期より下回ったことによる。この影響により売上総利益も減少し、販売費及び一般管理費を約２億円縮減したが、営業利益・経常利益ともに減益となった。

〔主な内容〕

1　卸売業者数

部　類	卸売業者数及び本社所在地	
水　産	9社	＜築地7、大田・足立　各1＞
青　果	10社	＜大田3、築地・豊島・淀橋・板橋・世田谷 北足立・多摩NT　各1＞
つけ物・鳥卵	3社	＜築地2、大田1＞
食　肉	1社	＜食肉＞
花　き	8社	＜大田・北足立・世田谷　各2、 板橋・葛西　各1＞
合　計	31社	

2　取扱数量・売上高及び収益状況

部 別	事 項	平成22年度	平成21年度	前年度比:%
水産物	取扱数量	555,689トン	582,659トン	95.4
	総取扱金額(売上高)	5,143億4,044万円	5,206億571万円	98.8
	営業利益	5億2,634万円	5億4,891万円	95.9
	経常利益	12億9,196万円	18億3,129万円	70.6
青 果	取扱数量	2,006,304トン	2,149,510トン	93.3
	総取扱金額(売上高)	5,376億6,798万円	5,157億7,364万円	104.2
	営業利益	30億8,295万円	20億3,244万円	151.7
	経常利益	36億7,041万円	25億7,253万円	142.7
花 き	取扱数量	1,747,754千本	1,859,465千本	94.0
	総取扱金額(売上高)	827億3,506万円	855億2,744万円	96.7
	営業利益	2億5,685万円	2億8,568万円	89.9
	経常利益	3億4,574万円	4億6,102万円	75.0

＜水産物部＞

水産物部は減収減益となった。売上高は、受託物品・買付物品ともに取扱数量が減少したが、買付品の取扱金額はやや前年度を上回った。売上総利益は、買付品が上昇したものの、受託販売手数料及び兼業業務が大きく減少したことにより前年度を下回った。このため、販売費及び一般管理費の縮減では賄いきれず、営業利益・経常利益ともに減益となった。

＜青果部＞

青果部は増収増益であった。受託物品、買付物品ともに取扱数量は減少したものの、単価が上昇したことにより売上高は増加した。このため、販売費及び一般管理費は増加したものの、売上総利益がそれ以上の伸びとなったため、営業利益、経常利益も増益となった。

＜花き部＞
花き部は減収減益であった。切花、鉢物ともに単価は上昇しているものの、取扱数量が前期より減少したため、売上高は約２８億円減少した。販売費及び一般管理費は約２億円縮減したが、営業、経常利益ともに減益となった。

３　総資産・負債・自己資本

部　別	事　項	平成22年度	平成21年度	前年度比:%
水産物	総資産	1,072億912万円	1,099億8,947万円	97.5
	負　債	673億9,294万円	667億9,696万円	100.9
	自己資本	398億1,618万円	431億9,251万円	92.2
青　果	総資産	568億4,873万円	552億4,791万円	102.9
	負　債	188億9,332万円	189億1,013万円	99.9
	自己資本	379億5,541万円	363億3,778万円	104.5
花　き	総資産	149億9,411万円	168億6,877万円	88.9
	負　債	70億2,188万円	95億6,748万円	73.4
	自己資本	79億7,223万円	73億129万円	109.2

水産物部の自己資本比率（自己資本／総資産）は37.14％、青果部は66.77％、花き部は53.17％となっている。

４ 各部門の比較

項目・部類	水産物部	青果部	花き部	計
総取扱金額(売上高)	5,143億4,044万円	5,376億6,798万円	827億3,506万円	1兆1,347億4,348万円
売上総利益	239億81万円	379億6,461万円	79億3,009万円	697億9,551万円
販売費及び一般管理費	233億7,447万円	348億8,166万円	76億7,324万円	659億2,937万円
営業利益	5億2,634万円	30億8,295万円	2億5,685万円	38億6,614万円
営業利益率	0.10%	0.57%	0.31%	0.34%
経常利益	12億9,196万円	36億7,041万円	3億4,574万円	53億811万円
経常利益率	0.25%	0.68%	0.42%	0.47%

※つけ物・鳥卵及び食肉部を除く

総取扱金額（売上高）は、青果部が５千３百億円を超えており一番大きい。青果部の委託手数料率は水産物部に比して高く、また、水産物部は受託物品より利益率の低い買付物品の取扱いが多いことから、売上総利益も約３８０億円となっている。
一方、販売費及び一般管理費も、青果部が水産物部を１１５億円ほど上回る約３４９億円に留まっているため、売上総利益から販売費及び一般管理費を差し引いた営業利益は、青果部が水産物部を２６億円ほど上回り約３１億円となっている。
営業利益率も、水産物部が０．１０％、青果部が０．５７％、花き部が０．３１％、経常利益率は、水産物部０．２５％、青果部が０．６８％、花き部が０．４２％となっている。

＜参考＞

１ 営業利益率

営業利益とは、会社が本業から上げる利益のこと。売上から、原材料費や仕入れ費用、販売費及び一般管理費などの本業に関わる費用を差し引いて求めたものが営業利益である。営業利益率は、企業の収益力を見るための指標であり、売上のうちどのくらいが営業利益になるのかを見るもの。

営業利益率＝営業利益／売上高（受託＋買付＋兼業）×１００（%）

２ 経常利益率

経常利益とは、営業利益に支払利息や有価証券売却益などの本業以外の損益を加減して求めたものである。営業利益と同様、企業の収益力を見る指標である。

経常利益率＝経常利益／売上高（受託＋買付＋兼業）×１００（%）

３ 部類別平均単価の推移

単位：円

部　類		22年度	21年度	20年度
水　産		823	800	831
青　果	野菜	240	219	218
	果実	344	285	312
花　き	切花	61	59	59
	鉢物	444	429	434

※・年間総括表（市場別・卸売業者別・部類別取扱高）の部類別平均価格による

・水産、青果の平均単価は、1kgあたり

・花きの平均単価は、切花は本、鉢物は鉢あたり

４ 利益率の推移

単位：%

部　類		22年度	21年度	20年度
水産	営業	0.10	0.11	▲ 0.20
	経常	0.25	0.35	▲ 0.13
青果	営業	0.57	0.39	0.42
	経常	0.68	0.50	0.53